

39

寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内
義光流之内佐竹

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (37)
函號	76 1





佐竹

山下

福村

寛永諸家系圖傳

清和源氏

庚一

義光流

坊竹

清和六代

● 頼義

後四位下

右馬頭

相摸守

伊豫守

淺草文庫

義家よしいま○

八幡太郎やっぺん

陸奥守むつしのり

鎮守府將軍ちんしゆふのしやうぐん

義綱よしつな

實茂次郎つとむ

義光よしみつ

新羅之郎にんら

後立位ごたて

刑部卿けいぶのせい

右兵衛尉みぎべゑ

義業よしわざ

進士判友しんしはんぐん

昌義まさよし

佐竹冠者さたけくわんしや 下野守しもつけのり

恒寸つねすん 法名義忠ほりなよしたか

常陸守ひとちのり 道号蓮真みちごうれんま

隆義 たかよし

右田四郎 みぎのたに

常陸介 ひこらのまが

永二年五月廿日卒去六十六歳 えい二年五月廿日卒去六十六歳

法名亨月 道号隆義 ほうにやげん どうごうたかよし

秀義 ひでよし

佐竹別当 常陸介 さたけべつどう ひこらのまが

嘉禄九年十二月十八日卒去七十 かりく九年十二月十八日卒去七十

二歳 法名蓮實 道号秀山 ふたさい ほうにんぜんじつ どうごうひでやま

義繁 よしむね

常陸介 後上佐下 右左衛尉 ひこらのまが ちのうさげのさ ぎさゑのむすね

建长四年二月廿五日卒去六十七歳 けんちやう四年二月廿五日卒去六十七歳

法名蓮義 道号秀山 ほうにんげん どうごうひでやま

長義 ちやうぎ

右左衛尉 ひこらのまが

文永九年七月廿六日 卒去 年六十六
法名道義 乃号大山

義胤

乃陪孫次郎

正應二年四月廿日卒去 年五十二

法名寛義 道号乃山

行義

乃陪次郎

徳治二年七月十二日卒去 四十一之歳

法名行義 乃号正山

貞義

次郎 乃号上総

文和元年九月十日卒去 六十六之歳

法名道源 乃号嵩山

義厚 よしあつ

右馬権頭 じまのけんのかみ

康安二年正月十一日卒去 五十二歳

法名浄表 じやうけい 号表山 しやうざん

義信 よしのぶ

左近大守右監 さえんのたいしゆうけん 号助 すけ

康應元年七月十四日卒去 四十四歳

法名聖義 せいぎ 道号海浦 うみうら

義盛 よしかさ

右馬頭

應永十四年九月廿一日卒去 四十三歳

法名為盛 なむかみ 道号大淳 だいじゆん

義人 よしひと

右衛門佐

右京大进

應仁元年十二月廿四日卒去 六十

八歳 法名本光 道号竹道

今按ずるに義人實ハ上杉憲定

の子ナラハ何ゾの義憲ト号ス義盛

婿トありテ佐竹の家トツギル

義人トありト云

義俊

伊豫守

文和九年十一月廿四日卒去 五十八歳

法名健暎 道号曜岳

義治

后深作

延治二年四月廿五日卒去 四十八歳

法名錦三 道号一安平

義隆

田代右衛門 右京大夫

永正十四年二月十一日卒去四十八歳

法名道満 道号還空

義篤

大膳大夫

天文十四年四月九日卒去二十九歳

法名月光 号溪心

義昭

右京大夫

永禄八年十一月三日卒去

号安

源真其阿与号寸

義重

右京大夫

享长十七年四月十九日卒去六十六歳

法名圓信 号海庵

義宣よしゆき

右京大夫

天正十八年十二月廿二日あついで後四位下ご

叙な一の后ご小せ后ご守し

寛永三年八月十九日かんえい后四位上ご左さ近ぢ侍し

檢中納言けんちゆうなごん守し

同十年正月廿五日卒し去こ 六十四歳

法名天英てんえい 道号傑堂けつどう

義隆よしりゆう

修理大夫しゆりのたふ

實まことハい岩い城まき忠ちゆう次じノの貞まこと隆たかハか嫡ちやく男おとこ貞まこと隆たかハ

義よし重しゆう之の男おとこ小せ一の守し義よし宣ゆき之の弟あになるゆ少せうハ

義よし宣ゆき子こなるまきになるら義よし隆たかとな親あや子こ

と可と

寛永三年八月十九日 従四位下侍 後
に召す

家紋



先祖より隆義より白旗より秀義
の河頼朝より河頼朝より河頼朝より
河頼朝より河頼朝より河頼朝より
河頼朝より河頼朝より河頼朝より

寛永十九年十一月廿六日 招列大坂今
福表合戦の河義宣家人軍功あり
了しよわ聖年正月 河義宣家人軍功あり
河義宣家人軍功あり

今度お招列大坂今福表一戦
河合津波致し之を象形骨之
至感の旨とや

寛永二十
正月十七日 秀忠御判

戸村十左衛門

今度お振列大坂今福表坊
我之刻合池端粉肯之系感思
之系世比取働粉肯之系感思
思之也

慶長二十

正月十七日秀忠御判

梅津守右らとの

今度於振列大坂今福表坊
我之刻合池端粉肯之系感思

石之也
慶長二十

正月十七日秀忠御判

梅津守右らとの

今度於振列大坂今福表坊
我之刻合池端粉肯之系感思
石之也

慶長二十

正月十七日秀忠御判

梅津守右らとの

今度お振別、大坂へ福表防
我之河合徳揚粉肯之象感

思ふや

受合三千

正月十七日秀忠沖判

思津甚之清射之

同時存物

沖勝物 次直

沖勝物 次直 佐國

長服 一重 沖勝服

戸村十太夫

梅津甚之清

信右内務物

同

同

同河敵と討者

大塚九郎甚清

思津甚之清

小川刑平甚清

小坂海織部

小女川正屋

高屋五右衛門

台成弥右衛門

此不足將中右五人

江尻軍甚清

加友之鈴

高橋源右衛門

清川八右衛門

河内討死の者

物ものハは言こと名な晚おそニに防かま我われ乃すなは河か内の討う死ち

小野崎源左衛門

源江内膳

中村信清

高垣若右衛門

宇佐見三十三

白土若右衛門

神谷長五郎

町田小左衛門

小田初吉右衛門

船尾三十三郎

同歩どうふりり

根本治大丈

芳賀若右衛門

乃内合右衛門

討死源江内膳下

黒川信左衛門

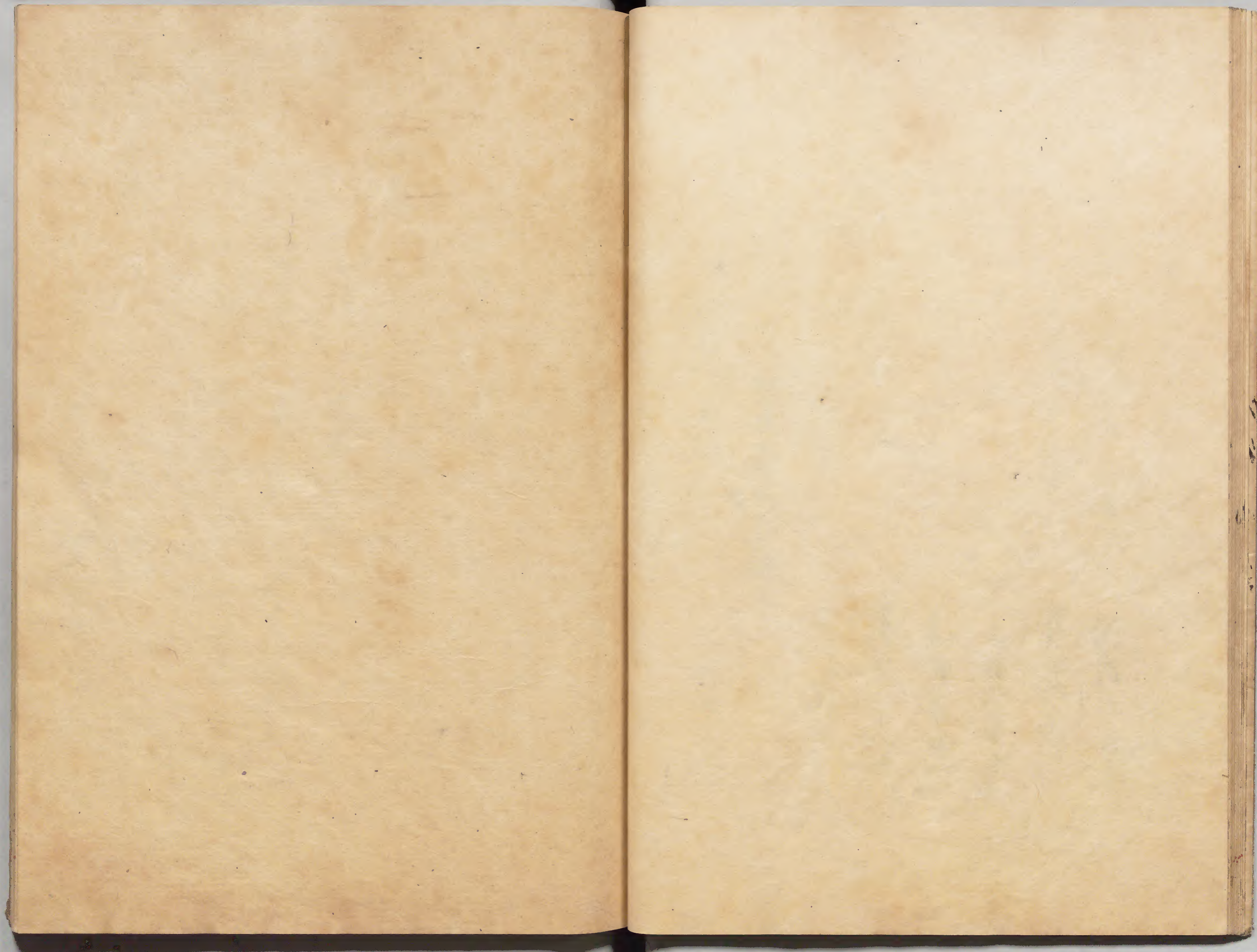
鈴木西左衛門

濱野半右衛門

戸原十左衛門

黒橋徳内

歩ありり
約あ月げ六む左さ衛ゑ門もん



山本

福村

正徳

田代藩

生國之河

清康君

廣忠卿より修入事執

福免河より年八十二

法名道善

正徳

新太師

九代藩

生國河

後正

東照大権現へ行くに

因東御入玉乃河病ありて修

せす 病死可小八十歳

福村と右邊 生玉回

母乃長と下して山本とありて

福村と称號寸

大権現

台徳院殿へ行くに

忠長御へ属しあり八十歳

みく病死

後長

市左邊 生玉回

忠長御へ行くに

改正

勅右邊 生玉回

名徳院殿

將軍家へ行々々々
武列八王子乃沙
代友とす

正重

助也

正吉

田舎

生玉之河

大権現へ行々々々

安永十九年之列高瀬よおろく
地と海より大坂を度乃沖陣よ
可

文和二年

名徳院殿へ行々々々
度乃沙上洛よ
可

同去年

東福門院沖上洛了
可

沙入内乃河田坪のり
つぎとす

寛永三年二條の沖城へりき乃時
儲乃沖城なりびし沙彦交れ沙彦と
はと心

同四年 釣合よりして沖納戸の役
を相勤し

同九年

將軍家へはくしむり大沖番とつと心

同十年二月七日武列名目よおわく

沙加坊とく海ノ敷

正治

忠吉房 生國同あ

實吉助吉房正重が子なり

寛永四年十一月廿八日

名徳院殿をねしそそまはれ

同五年小十人組とわら沖切米とた

まはれ

同九年沖切米れ沙加坊あり

同十一年

將軍家沖上流に河を修す

正茂

又右邊門

生玉之河

元和七年

右邊院殿と相福くわいふくとを敷

同八年

釣命つりのみことよりして河を修す

河を修す沖切米と相修す

寛永三年沖上流に河を修す沖切米

河を修す加増のり

同九年

將軍家へ河を修す

同十年七月小十人組の頭とを敷

同十一年沖上流に河を修す

同十八年十月 釣命よりして河を

を修すごしよえ教免

正次

七郎左衛門

生國同前

寛永二年

台座院殿と相^{あひ}事^ひの^り所^に番^と相^あ勤^じ

同四年沖切米とたまひ

同九年

將軍家へ^{つと}行^き久^し事^ひの^り所^に大^に所^に番^と勤^じ

同十年下^さ總^の兵^に大^に野^に小^にお^にわ^り〜^り死^すと

〜^り死^す

正次

九吉湯

生國同前

寛永七年

將軍家と^あ相^あ勤^じ〜^り死^す

同八年大^に所^に番^と相^あ勤^じ

同十年相^あ勤^じ在^り給^ふ小^にお^にわ^り〜^り死^す

〜^り死^す

系な

権九郎

右膳うで

右郎右膳

生玉三河

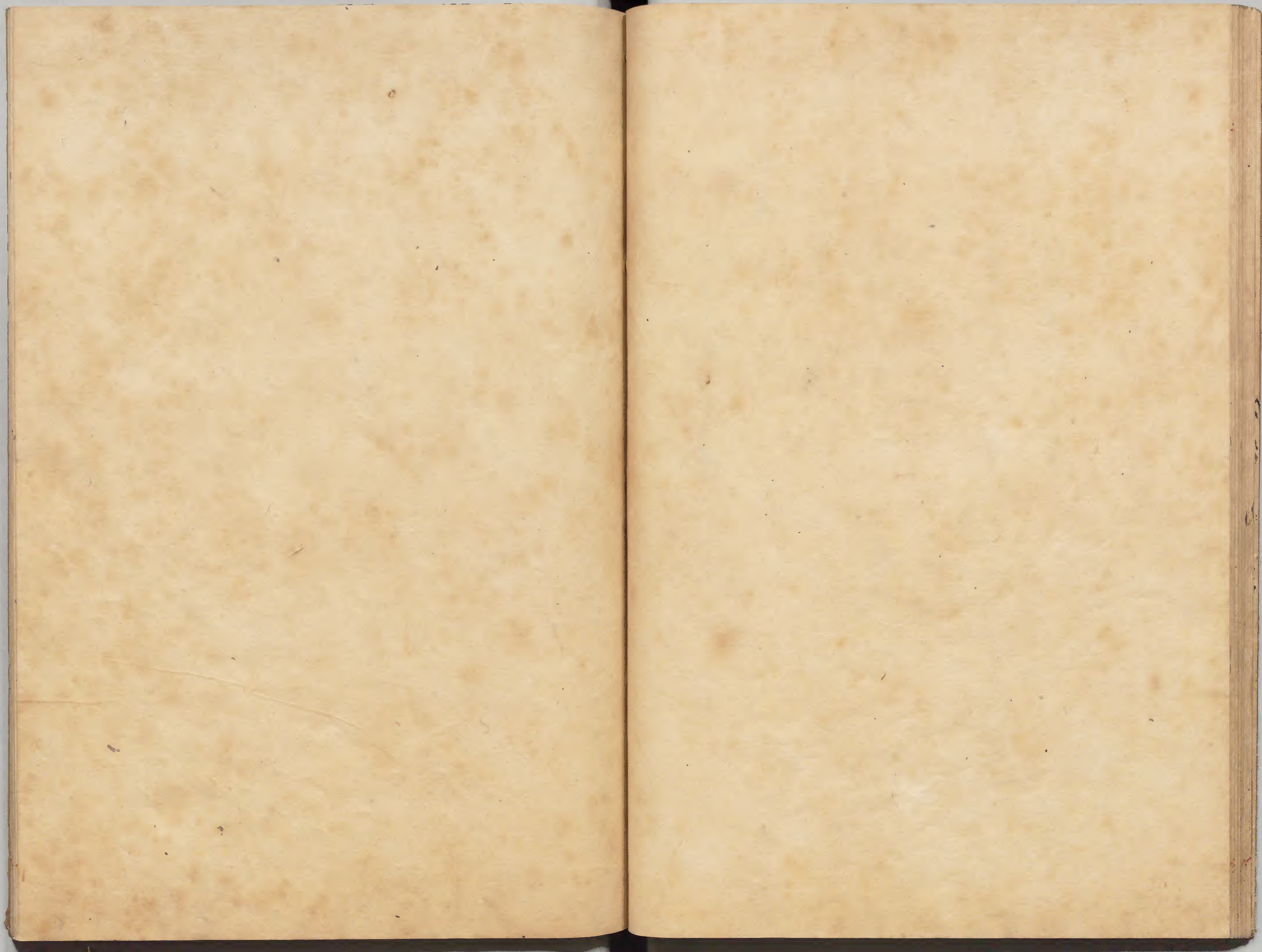
女子

村上むら右六郎むら妻め

右後うしろ

右後

山本やまのほん家い紋い右が墨くろ小鳥こどり居ゐのの上うへはは鳩とむ二に
福村ふくむら家い紋い右が墨くろ



● 正高まさたか

山本やまもと

近江判官義隆乃末流おみえ ぎん ぎん 乃 末流

表右衛門 生石之列

松平監物之房まつらう けんぶつ しのぶ之列のり横井よこい之列のり

七十歳しちじゅうさい少すく病死 法名ほうな若わ若わ若わ体たい

重成 しげなり

新五右衛門

生玉回お

永祿十二こいろう年

東照大権現とうしょうと称いし奉まり尾い列り小牧沙陣せまき

乃のとき波なみ地ぢ小牧せまき首くび級ぐわいと稱いし

天正十八年てんしやう小田原陣せうだわらと称いし

慶長けいぢやう立たち園いんヶ原沙陣せまき乃の河沙使番かと

おららはは首くび級ぐわいと稱いし乃の河沙陣かの後のち沖うき

加増立百石と称す

大坂おさかああ度ど乃の沙陣せまき小沙使番せまきと称す

大権現おほごんげん薨御こうごの後

名徳院なとくゐん殿のり小沖せう乃の河沙か子石こいしと称す

元和二年十二月廿六日げんわ廿に六じ日に六じ十じとと業ごう小せうとと病びやう

死し 法名ほふな道運みちうん

重正 しげなり

新五右衛門

生玉回お

天正十九年

大指現小指へもり開あが原大坂あ沙陣よ

侍者寸

大指現ミ薨ハ沖ノの後

名徳院殿

將軍家へ行くへもり

寛永十六年十月十六日病死六十五歳

法名松月せうげつ

重吉しげきち

新上左衛門

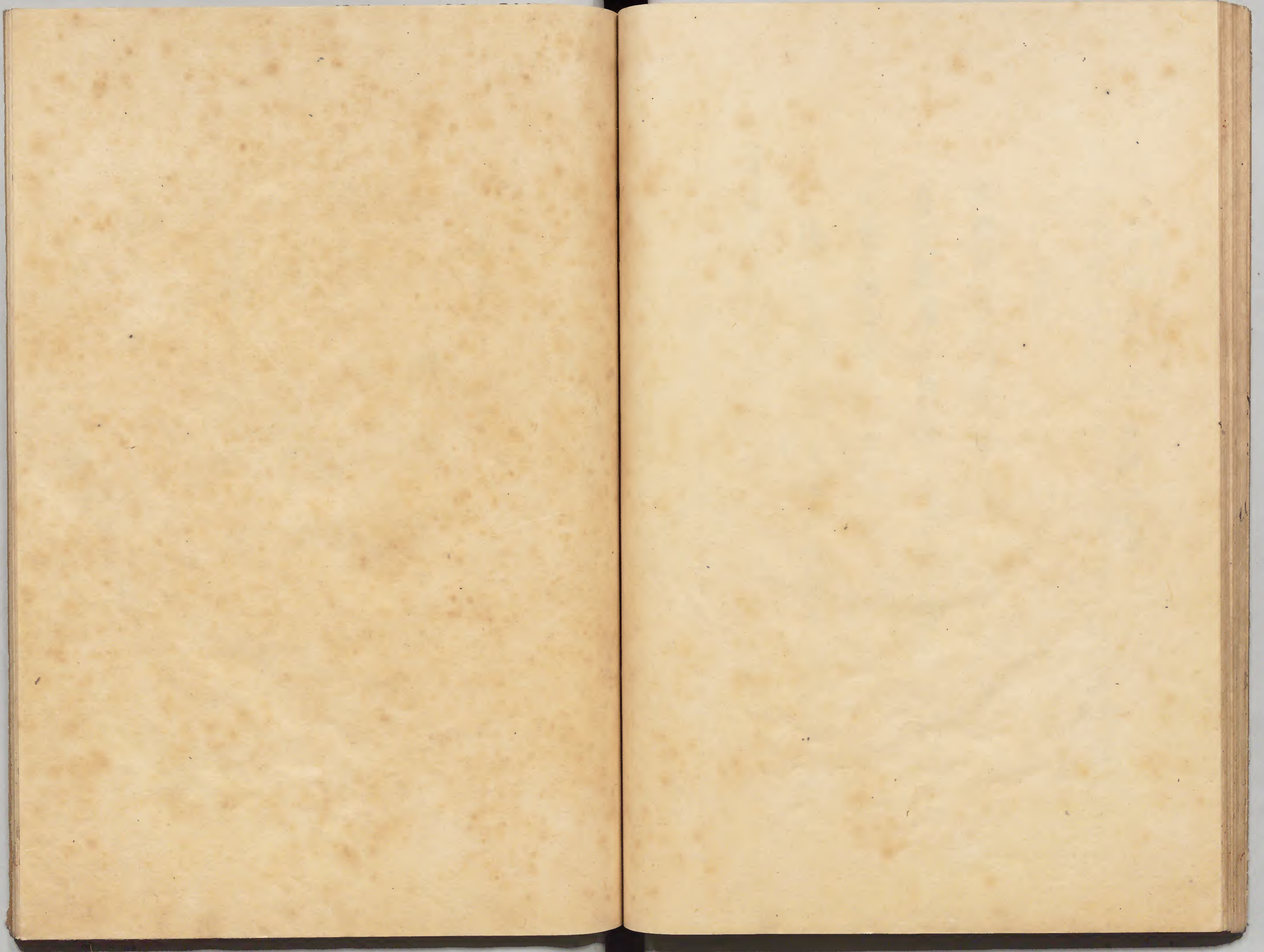
生玉城列

寛永七年

名徳院殿と名指なへもり薨ハ沖ノの後

將軍家へ行くへもり

家紋丸の内白鳩一番まるのうしろとび



正繩

山本

先祖せんぞ信列しんれつ乃の後人ごにんなり

又助 生玉三列

清康君きよかみ小治こぢふ

繩義

又十郎 生國同前

廣忠郷ひろしん了しま了り了り了り

繩次じゆんじ

子之長湯

生玉同前

東照大権現

台徳院殿

將軍家きんぐん之の存ぞん湯たう寸すん

病びやう死し歲さい八はち十じゆ五ご

法ほふ名な更まへ珠しゆ

正勝せいしやう

子之長湯

生國せいこく茂しげ苑えん

寬永二年

將軍家きんぐん入い行ぎやう久く入い了り了り了り

次正じよんせい

十右史

生玉同前

元和元年

將軍家と名^い湯^ぢ——
名^い親

家紋丸の内小^い右^ぢ巴

● 義晴

山本

左衛門佐

生公 駿列

今川義元いまがわのり小行こぎ久ひさくく駿列すま乃の日ひ葉は科かと

以地よとと相願あひねがと

永禄九年えいりく二月七日にふがふし死しすす中ちゆう之の業わざ 法名

宗現むねの

正義

忠孝傳

生國同前

正義十六歳小して

東照大権現へ正出され存揚寸

元龜元年六月婦川合戦乃河正義十

七歳小して正出され首級と爲りしを後

大権現沙出陣乃ら此毎度正出され首十

之級と爲りしを此毎度正出され

天正十二年乙未の合戦乃河首級と爲

りしを此毎度正出され

けし海軍ありて

大権現より正出され痛とせしを此毎度

醫師丸山市兵衛と爲りしを此毎度

より正出され後列幕料の内よおわたり地

と相伝す

同十八年同東沙入此河正出され

名瀧院殿

將軍家了行久きま川親

寛永十一年正月廿四日八十一歳山々

死寸 法石英珊

正播まさひろ

子九郎

生玉茂翁

正勝まさかつ十三歳山々

台徳院殿と稱し奉り大坂あ度り沙陣

小坂部内中と稱し奉り一法をす

正直ただしい

翌年大坂再乱乃河首級と稱し奉り

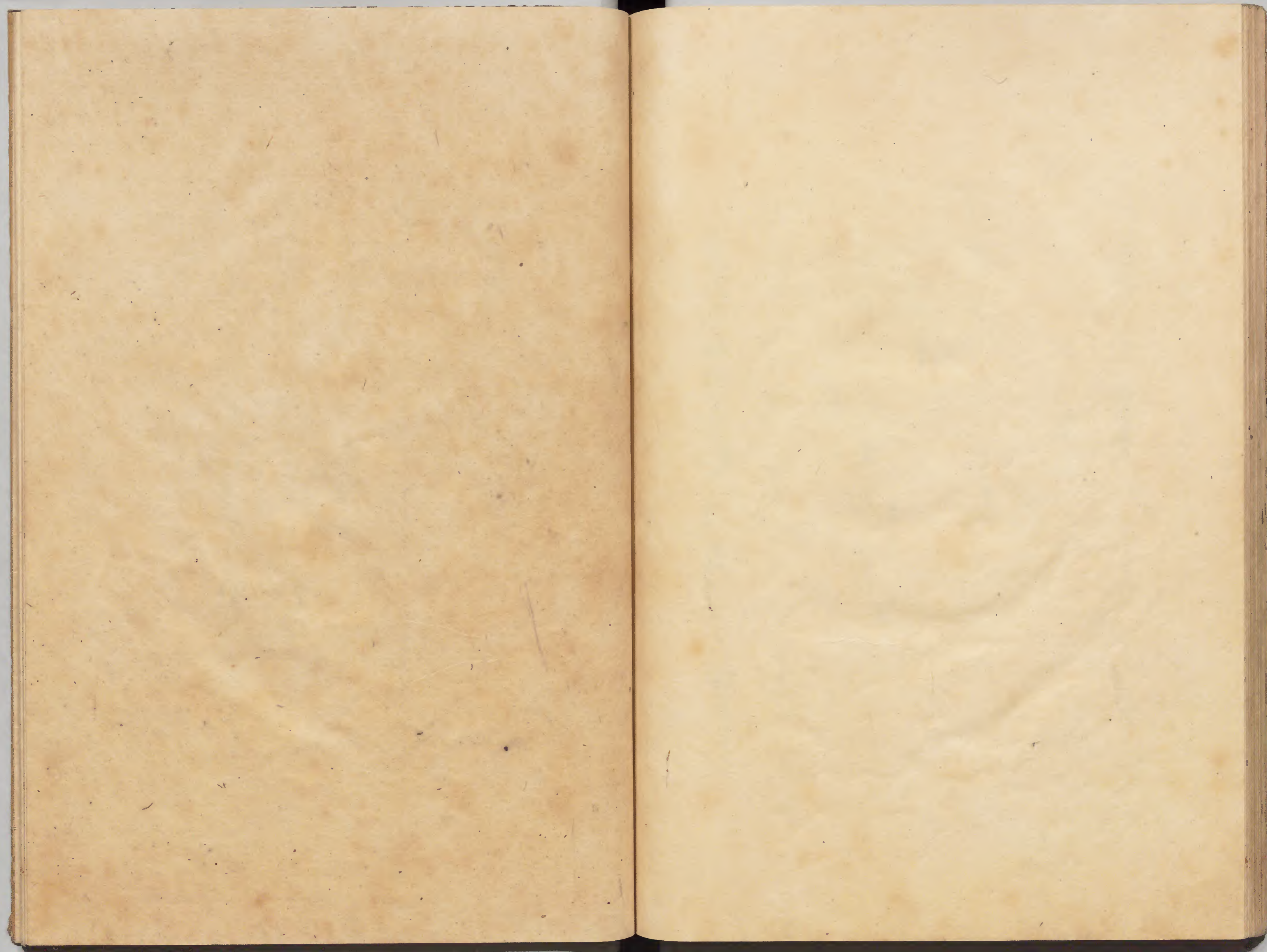
辛九郎

生國同家

元和四年

將軍家へ行入り奉り

家紋一巴柏葉いばら



山本

清道 しよらう

甚次郎

生國三列

大指現（行）之（）

天正三年九月廿七日病歿 歳五十一

清道 しよらう

敬古清

生國三列

大指現

名徳院殿と為し奉る

寛永六年九月十七日病死 七十一歳

盛近もりちか

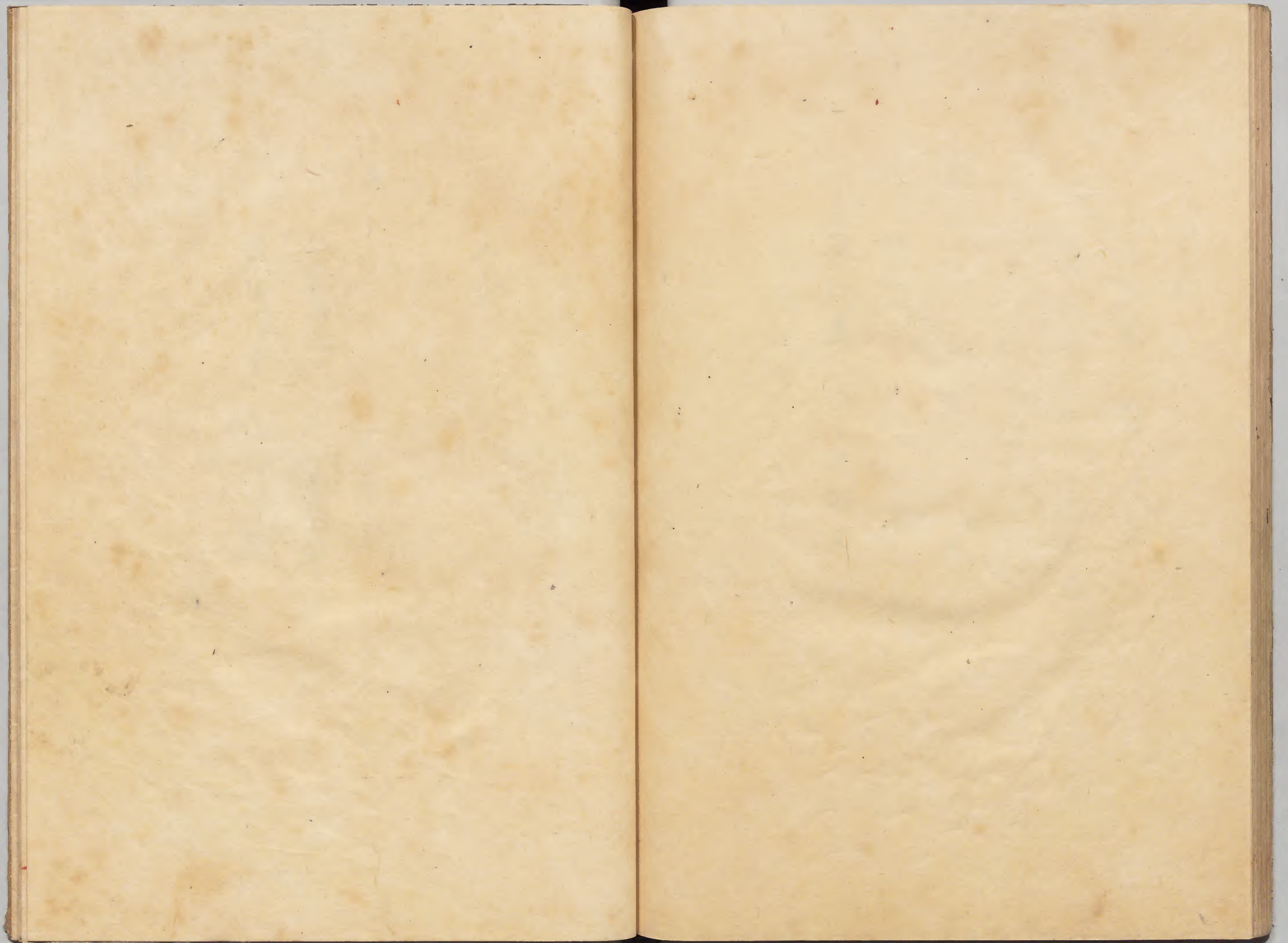
友右衛門

生玉氏翁

名徳院殿

將軍殿と為し奉るいさぎ

家紋丸の内と上格かみ



● 系

山本

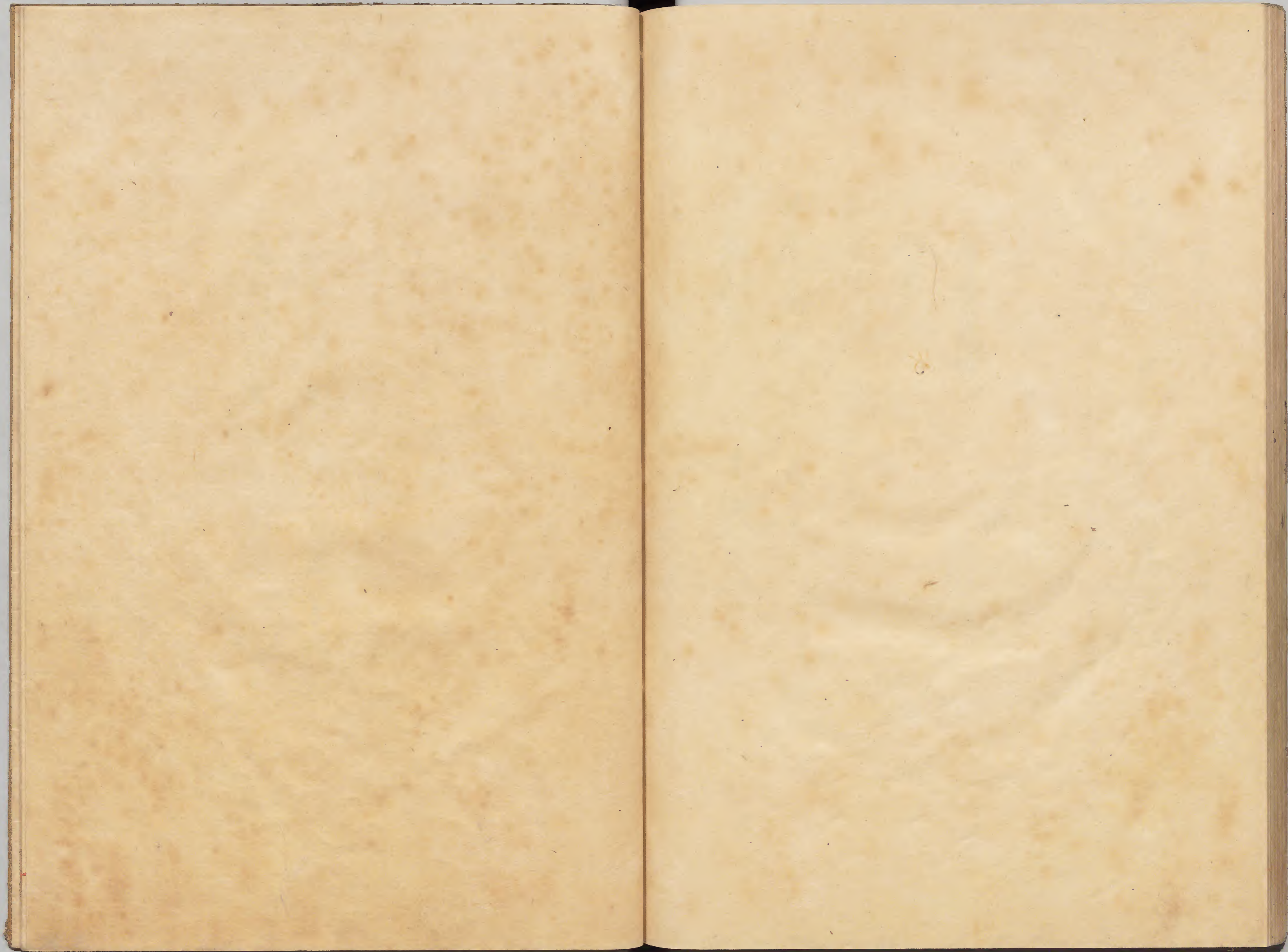
九段左衛門

生國甲斐

武田信玄しんげん 了しゆ 了しゆ

系

土坑



山本

系

子之右衛門尉

生玉尾列

尾列岩念氏より

邑重

小六郎

生國同系

信長小治へ〜教度乃働の取ふより
尾張内府へはげ〜鐵炮之糧と云ふ
天正十六年四月十九歳少く病免

邑次

大右衛門尉 生玉回前

尾張内府へはげ〜邑重代乃〜鐵炮

河〜つろあが〜内府没落後

大権現へ石出〜れは〜へ

慶長五年用原沙陣〜終戦後

台徳院殿小治へ手紙

邑改

平六郎 生國氏苑

實ハ言本友之傳が子を〜言本も又源氏

な〜邑改外留山本之集の邑次が養子

こ〜あ〜て〜家と〜は〜言本乃系別よ

あ〜と載す

名酒院殿と梅一子歌

大坂あなごの陣小治

家紋は丸の内小二の引後わ〜〜〜

丸の内よ梅輪内

